

1 内政

連邦警察署に侵入し逮捕された3名のチューク人に有罪判決

6日、昨年10月12日にチューク州の連邦警察署に不法侵入し逮捕された3名のチューク人に対する懲役1年間の有罪が確定した。（3名のうち1名はエリモ・チューク州知事の子息）

（6月6日付 カセリエプレス紙）

チューク州パッタ島で児童売買容疑で4名が逮捕

11日、チューク環礁の沖合にあるパッタ島で児童売買の容疑で4名が逮捕された。最大30年間の実刑と5万ドル以下の罰金が課せられる可能性がある。以前、同様の別事件で予想よりも遙かに軽い判決が下されたケースがあったが、今回の判決は8月8日に行われる予定。

（6月11日付 カセリエプレス紙）

北マリアナ諸島自治連邦公安部による治安訓練が実施

CNM I（北マリアナ諸島自治連邦）公安部による63名の当地警察官に対する10日間に亘る訓練が実施され、1日、修了式が実施された。今次訓練の実施はトレス・サイパン知事とホセ・コロニア市長との間で合意されたものである。訓練に際して拳銃がCNMIからミクロネシア連邦司法省に寄贈された。

（6月1日付 カセリエプレス紙）

会計監査局ポンペイ事務所、連邦警察に対する詐欺予防ワークショップを実施

22日、会計監査局ポンペイ事務所はウー地区のサラダク小学校にて連邦警察を対象に詐欺予防に係わるワークショップを実施した。会計監査局ポンペイ事務所によれば、同事務所は過去4年間で36件の詐欺や不正、公金横領等の訴えを受領し、そのうち11件が裁判所に起訴された模様。

（6月22日付 カセリエプレス紙）

2 外交

豪州外相率いる超党派の代表団、FSMへの支援を確認

4～5日にかけてビショップ豪州外相率いる超党派のハイレベル代表団がポン

ペイに来島し、今後ともFSMに支援をしていく旨確認した。詳細は往電第337号を参照。

(6月5日付 カセリエプレス紙)

黄 (Huang) 新駐ミクロネシア中国大使が信任状を捧呈

6日、新しく着任した黄 (Huang) 駐ミクロネシア中国大使はクリスチャン大統領に信任状を捧呈した。詳細は往電第353号を参照。

(10日付 当地中国大使館HP)

ライリー駐ミクロネシア米国大使が第37回太平洋島嶼国議会連盟開会式で基調演説

22日、ロバート・ライリー米大使は、気候変動が主なテーマとなった第37回太平洋島嶼国議会連盟の開会式で演説を行い、太平洋地域におけるUSAID等を通じた気候変動に関する米の取り組みについて演説した。

(当地米大使館のHP)

3 経 済

SPC、ナマコ漁業の停止の継続を推奨すると報告

SPC (Secretariat of the Pacific Community) は最近55ページに及ぶポンペイ州周辺海域のナマコ資源に関する調査結果を公表した。報告書によると2016年時点のナマコの資源量は1991年のナマコ漁業の停止以前の水準には回復しておらず、その原因として2016年に行われたローカルマーケットへの出荷や生態系の崩壊、ナマコにとって有害な漁業慣習などを挙げている。また、2016年のナマコ漁民の利益は16,854米ドルで、販売総額は123,631米ドルであったのに対して、ポンペイ州はYoung Sun Corporationから25,000ドルのナマコ漁獲に関するライセンス料を徴収していたと報告している。SPCは、もし今ポンペイ州がナマコ漁業を許可するのであれば、漁獲開始前にナマコ資源の管理計画を作成するべきであると指摘しており、同報告書には具体的な提案も記されている。

2016年には、Mwoalen Wahu (組織名) がポンペイ州とYoung Sun Corporation に対し民事訴訟を申請し、ナマコ商業漁獲の実施計画に対して一時的な差し止め命令を求めている。この件については、未だ裁判所での審議前の状況であるが、この間にYoung Sun Corporation はAPSCO (会社名) の土地に大きなナ

マコの養殖テント建てた。ナマコの商業養殖は非常に難しく、ミクロネシア短期大学が養殖施設を設立しようとしているが、沢山の放流されたナマコの種苗は初期の段階で死んでしまい上手くいっていない。

（６月８日付 カセリエプレス紙）

ポンペイ州知事がミクロネシア多目的観光複合体発展に関する法案を議会に提出

２０１８年１月１８日、ポンペイ州議会議員の Stevick Edwin がポンペイ州知事に対して、カジノを含めた多目的観光複合体に関する法案の提出を要求する法案について言及した。まだ当該法案は成立していないが、既に投資者（Canton Construction Corporation）の話も出ているところ、何よりも法案を通すことが先決である。本法案が成立した場合、１，０００人もの雇用を生み出すと言われ、カジノが建設されれば米国人、豪州人、中国人、日本人といったカジノ目当ての外国人観光客の増加が期待されている。近く、ポンペイ州知事が Casino Gaming Commission という名前の委員会を発足する予定である。

（６月２０日付 カセリエプレス紙）

4 経済協力

米内務省、大気と波を予測するプログラムを太平洋島嶼国に提供

ポンペイに来島した Doug Domenech 米内務省次官補は米領や米とコンパクトを結んでいる島嶼国における気象予報や危険情報の予測システムを強化するために４９７，７３８米ドルをハワイ大学共同大気海洋研究所に供与した。

（６月１１日付 カセリエプレス紙）

米内務省、ヤップ州ロボットリーグプログラムをポンペイ州とチューク州へ拡張するための資金を供与

ポンペイに来島した Doug Domenech 米内務省次官補はポンペイ州アワーレディーオブマーシー高校で行われたヤップ州ロボットリーグプログラムの成功を祝うイベントに出席し、同プログラムをポンペイ州とチューク州の学校へ拡張するための資金２４１，６７５米ドルを供与した。ヤップ州ロボットリーグは２０１１年から米国のＮＰＯの支援により開催されており、ヤップ州の学生たちが自身でロボットを開発し、競争し合うものである。イベントにはヨシヲ・ジョージ副大統領、フィギル連邦議員、ウルセマル連邦議員、プレトリック副外務大臣等の政府要人も出席した。

（６月２５日付 カセリエプレス紙）

UNDP地球環境ファシリティ小規模グラント、Enimwahn 開発協会を援助

NGO団体 Enimwahn 開発協会は42,225米ドルをUNDP地球環境ファシリティから受け取った。資金は持続的な農林業技術の向上や気候変動に対応できる苗の購入等に使われ、Enimwahn 村の食糧安全の向上が期待されている。
(6月11日付 カセレリエプレス紙)

5 文化・教育

当地フィリピン人コミュニティによる比独立120周年独立式典が開催

17日、ポンペイ州のミクロネシア短期大学体育館にて、当地フィリピン人コミュニティによる比独立120周年を祝う催しが盛大に開催された。
(6月17日付 カセレリエプレス紙)

ポンペイの伝統的な文化についての本が出版

「ポンペイ：伝統に関する本」という題の本が最近、パシフィックルネッサンス代表の長岡拓也氏の努力により出版された。本はポンペイ語で書かれており、ポンペイの消滅しつつある口承による伝統文化を守るために出版された。プロジェクトはニュージーランド政府による太平洋開発・保護基金に支援され実現した。
(6月25日付 カセレリエプレス紙)